



三重県四日市市港地区自主防災組織連絡協議会
会長 笠井 得生

1 私たちの地域

私たちの港地区は三重県四日市市の北部に位置し、西に鈴鹿山脈、東は伊勢湾に面しており、四日市港の近くにあります。

四日市市は南に鈴鹿市、北に桑名市の間に位置し、山から海まで、多様性に富んだ条件の所に立地しています。

2 地勢と防災組織の 生い立ちと活動

港地区は海岸に近く埋立地も多く台風、地震、津波の被害、液状化も危惧されています。

隣接している石油コンビナートの火災、津波による浮遊物の脅威、JR関西線、国道23号線が地区を南北に縦断しており、非常時には東西の交通が遮断される恐れがあります。港地区は四日市市28地区の中で最も高齢化率が高い地区です。

2018年1月現在、四日市市の高齢化率は25.3%、港地区は42.1%です。

このような困難な条件下において、災害弱者と私たちの町をどの様に守るか、昭和

50～60年代に2隊の市民防災隊と各町自主防災隊が発足し、初めて総合防災訓練がスタートしました。

平成6年は全国的に孤独死が多発していました、港地区では『独居老人を孤独死させない』を合言葉に見守り活動をスタートさせました。

平成8年には阪神・淡路大震災を教訓として、各町の自主防災隊を統合して港地区自主防災組織連絡協議会が発足しました。

3 高齢化が進むなかでの 防災組織の取組

平成13年に東日本大震災の反省にたち、見守り活動を記録するために『港地区支え合いカード』を作成し、このときに『防災と福祉が一体化したまち』をめざして目標を掲げ、「要支援者全員に支援の手を届ける」を合い言葉に避難訓練に盛り込み活動を開始しました。

平成19年には地区内の高齢化が進み、地区内立地企業に災害時の支援などの手助けを求め協議会への参画を呼びかけました。

この呼び掛けに答え37社17団体が参画

地区別	港 地 区								四日市市
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	
総世帯数	990	976	949	946	939	929	941	939	136,943
総人口	1,967	1,921	1,859	1,825	1,778	1,713	1,713	1,648	312,163
65歳以上	753	753	745	738	740	705	709	694	78,944
高齢化率	38.30%	39.20%	40.10%	40.40%	41.60%	41.20%	41.40%	42.10%	25.30%

港地区の人口の推移と高齢化

をしてれています。

平成24年にはさらに高齢化が進み、一人々に支援を届けるために活動の活性化を求めて防災専門ボランティアにも参画を依頼しました。

ここに地域住民・連携企業・防災ボランティア・行政のネットワークが完成し、新たな活動が始まりました。

平成25年に「港地区支え合いカード」を連合自治会、社会福祉協議会、自主防災組織連絡協議会、連名で「港地区 災害時支え合いカード」としてリニューアルして3組織で支え合い見守り活動を行うようにしました。

効果的な支援を行うには、支援を受ける側においても、もっと自助努力をしてもらうように防災講座などで啓発に努めました。

一例として、「避難準備をして玄関先で待つ」を啓発しました。おかげで最近の避難訓練ではそれが根付いてきました。

4 今後の課題

最後に、港地区に顕在化しつつある高齢化、少子化、過疎化があり将来的には防災活動の担い手が減少し『イザ』の時に命を守る活動の収縮もしくは機能不全におちいる恐れがあります。

今後ますます防災組織と町組織の組織改善が必要になって来るかもしれません。

防災活動を維持して行くためには、あらゆる改善を目指して行かなくてはなりません。

非常時体験訓練では訓練をとおして機械器具などの取り扱いを学び体験するダンボール紙による避難スペース作りでは女性の活躍がめだちました。



避難スペース作り（非常時体験訓練）

三重大大学の先生を招いて防災講座『巨大地震にそなえて』と題して「ワールドカフェ」スタイルの講座を設け自由活発な意見を出し合い意識改革の手法を学びました。



防災講座「巨大地震に備えて」（ワールドカフェスタイル）



夜間訓練
（避難所3階屋上まで
車イスの運搬）



防災〇×クイズ 非常時の基本的な知識の確認